

読売新聞 きょう（1月16日）のイチ押し

1・3、社会面など 吉川元農相 在宅起訴

吉川貴盛・元農相(70)が農相在任中、大手鶏卵会社「アキタフーズ」の前代表から500万円の賄賂を受け取ったとして、東京地検特捜部が収賄罪で在宅起訴しました。吉川容疑者は金を受け取ったことは認めているが、賄賂の認識は否定しているといいます。

- ★ 閣僚経験者が在任中の汚職で起訴されたのは、北海道開発局の発注工事を巡り、受託収賄罪などで2002年に逮捕・起訴された鈴木宗男・元北海道沖縄開発庁長官（有罪確定）以来となります。
- ★ 吉川容疑者が心不全などの治療で入院していたことから、逃亡や証拠隠滅の恐れは少ないと判断し、高齢のアキタフーズ前代表とともに在宅で捜査してきました。「逮捕者ゼロ」のままの異例の捜査となりました。

社会面 阪神大震災26年 「熊本」も伝える使命

阪神大震災が起きた1995年1月17日の5日前に神戸市で生まれた兵庫県立高校の女性教諭・圓藤沙和さんが、防災教育などを行う県教委の専門組織「アース」のメンバーとして、小学校で初の防災授業を行いました。

震災の記憶がないまま育ち、学校で学ぶことはあっても自分の街で起こったことを実感できないままだったといいます。ところが大学生の時、熊本地震を遭遇し、同級生が亡くなりました。

その後教員になり、「神戸で生まれ、熊本地震を経験した自分なら、役に立てるのではないか」と命の大切さを子どもたちに伝えようと決意したと話しています。

他紙と比べて

関西経済面で、京都先端科学大学の理事長を務める日本電産の永守重信会長のインタビューを載せています。同社で求める人材を大学が出してこないことを嘆き、それなら自ら育てようと、同大学の理事長に就いて私財をつぎこんできたと言います。従業員3人から「1兆円企業を目指す」と言って実現した「永守流」で、大学教育のあり方に一石を投げようとしているようです。